身近な他者に悩み事を相談する過程における性差

安藤ゼミ　　森 加奈

問題関心

- 現代はストレス社会と呼ばれ、国民の半数近くが悩みやストレスを抱えて過ごしている
- 非専門家である身近な他者への相談についての研究は未だに少ない
- 男性に比べて女性の方が援助要請や自己開示を行いやすいことがわかっている

→ 身近な他者への相談における性差に着目

研究の目的

◆回答者の性別や相談相手の性別によって、
悩み事を相談する際にどのような違いがあるのかを
明らかにすること

✓ 相談の過程を

- 相談への期待
- 相談相手の反応
- 援助評価

の3段階に分類

調査概要

◆調査期間
2020年7月26日～2020年8月26日

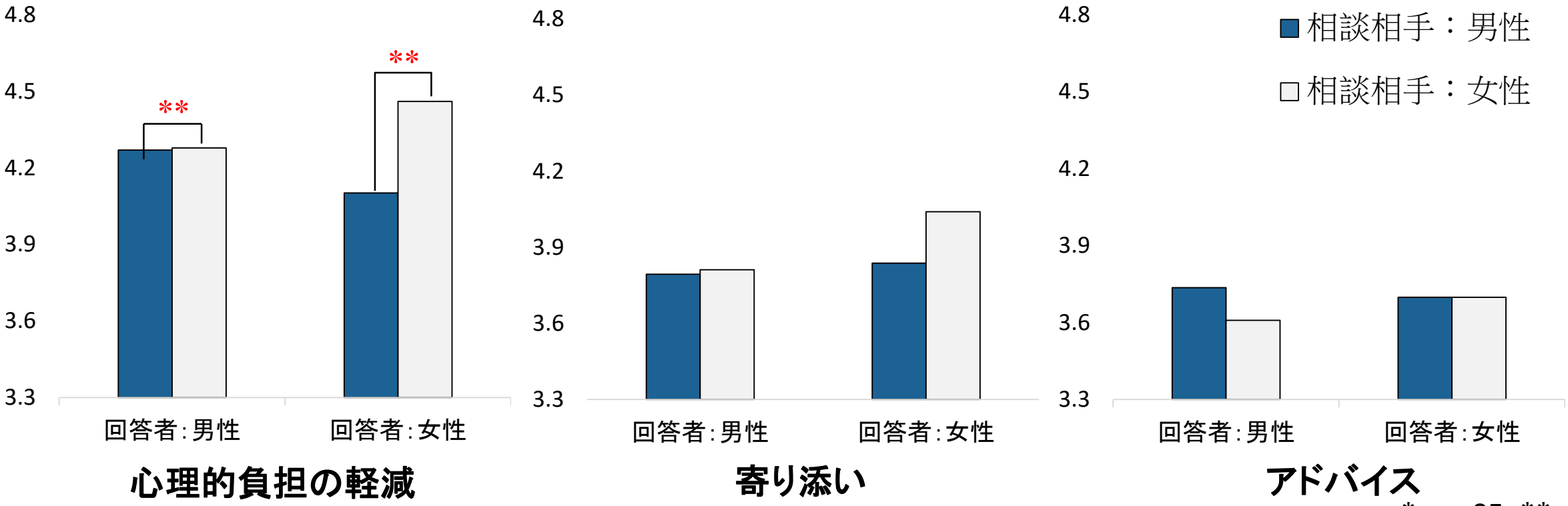
◆対象者
大学生男女166名
（男性：79名，女性：87名）

◆調査方法
質問紙調査（Googleフォーム）

◆質問紙構成
・属性に関する項目
・悩みを抱えたときの行動に関する項目
・相談経験や頻度に関する項目
・相談への期待に関する項目
・相談相手の反応に関する項目
・援助評価に関する項目
・総合評価に関する項目

など

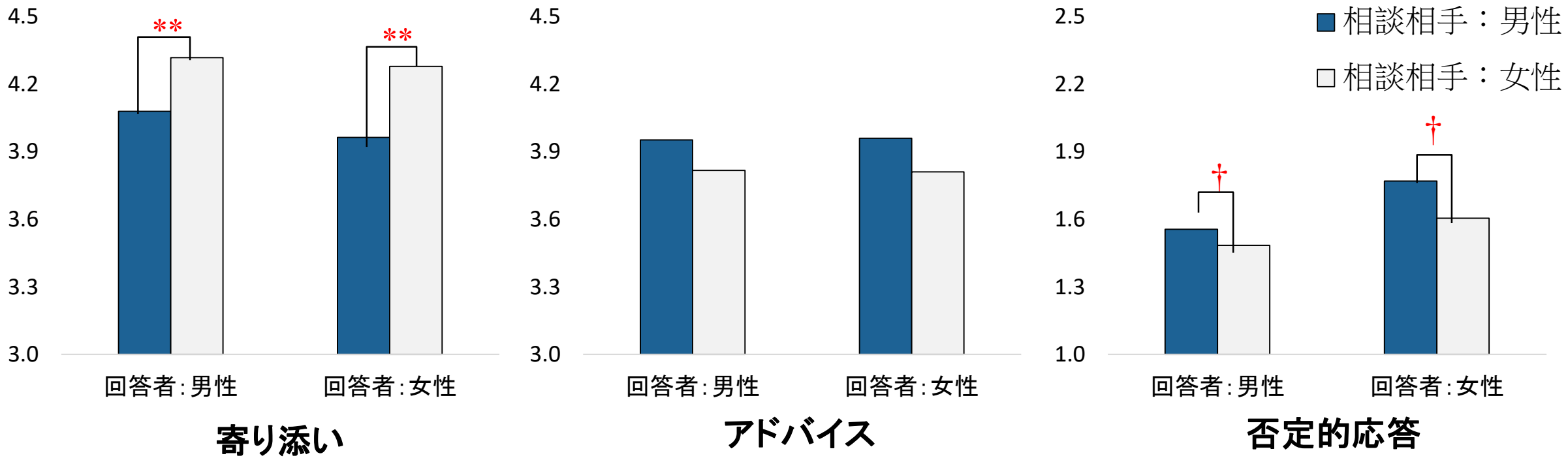
結果①　相談への期待



*$p < .05$, **$p < .01$

➢ 男性への相談よりも女性に相談する場合に心理的負担の軽減を期待する

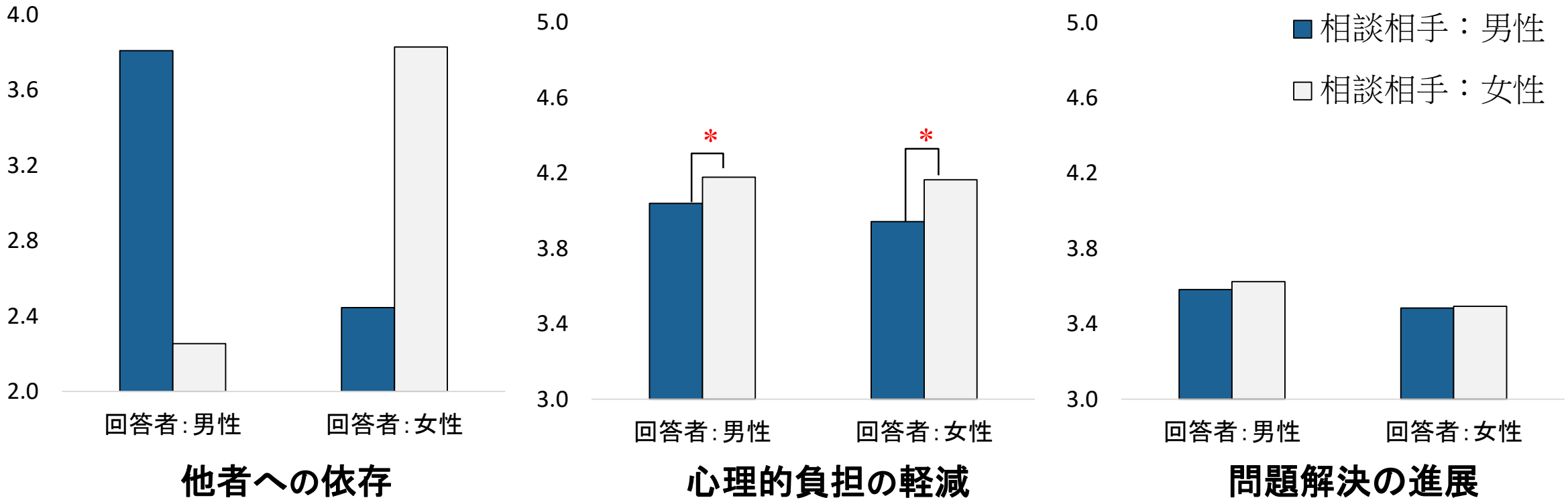
結果②　相談相手の反応



†$p < .10$, *$p < .05$, **$p < .01$

回答者に寄り添う行動は相談相手が女性の場合によく見られ、
否定的な応答は相談相手が女性よりも男性の方がよく見られる

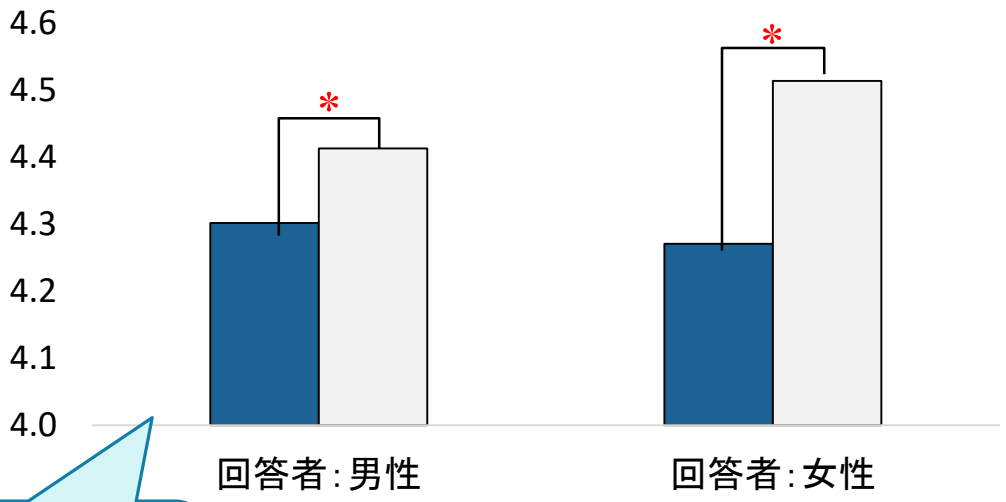
結果③　援助評価



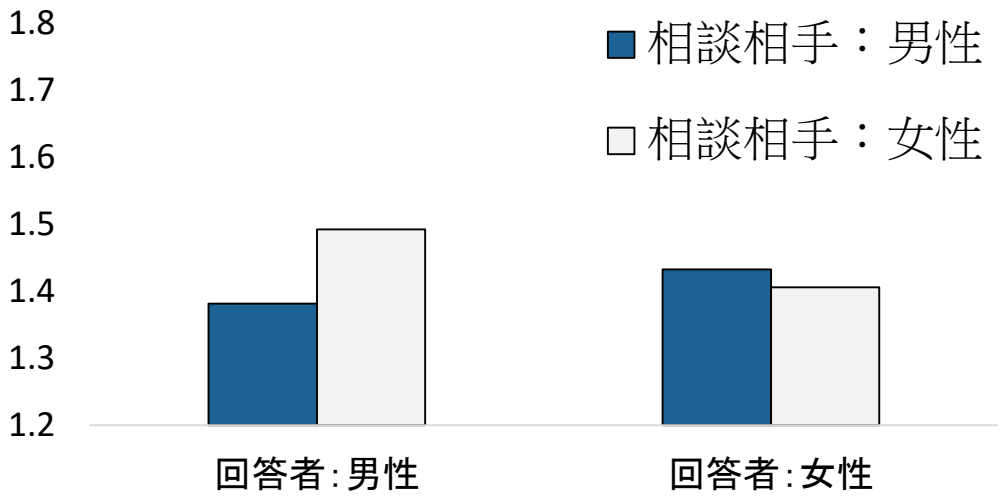
*$p < .05$, **$p < .01$

- 男性への相談よりも女性に相談した場合に心理的負担が軽減される

結果④　総合評価



相談してよかった



相談したことを後悔した

*$p < .05$, **$p < .01$

女性への相談
↓
相談してよかった

否定的応答の影響が最も大きい

否定的応答 → 総合評価

考察①

相談への期待	女性への相談：心理的負担の軽減を期待
＋	
相談相手の反応	女性は回答者に寄り添う行動をとる
＋	
援助評価	女性への相談：心理的負担が軽減された
↓	
総合評価	女性への相談：満足度が高い

考察②

✓相談相手の反応が総合評価に及ぼす影響では、

否定的応答の影響が大きい

↓

否定的な応答を行わないことや、相手に寄り添う行動をとることで、相談者の満足度を高めることができる

↓

円滑なコミュニケーションや信頼関係の構築につながる

ご清聴ありがとうございました